



TITLE:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第5巻第3号) 編集後記・購読要項・投稿内規

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第5巻第3号) 編集後記・購読要項・投稿内規
. 泌尿器科紀要 1959, 5(3): 206-206

ISSUE DATE:

1959-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111727>

RIGHT:

泌尿器科紀要

第 5 巻 第 3 号

昭和 34 年 3 月

随想 医学随想.....	土 屋 文 雄	125
非淋菌性尿道炎に於ける Pleuropneumonia-Like Organisms (PPLO) に関する研究		
第Ⅰ編 男子尿道炎に於ける PPLO の分離	大 島 升	127
非淋菌性尿道炎に於ける Pleuropneumonia-Like Organisms (PPLO) に関する研究		
第Ⅱ編 PPLO 分離株の分類に就て.....	大 島 升	139
非淋菌性尿道炎に於ける Pleuropneumonia-Like Organisms (PPLO) に関する研究		
第Ⅲ編 各種抗生物質に対する PPLO の感受性に就て	大 島 升	145
慈大式人工腎臓「Blood Cleaner」の研究		
第三報 正常犬及び尿毒症犬に於ける実験的研究.....	三 木 信 男	153
泌尿器科領域の蛋白質をめぐる 2, 3 の問題		
第 2 編 泌尿生殖器系疾患の血漿蛋白質のポーラログラフ的研究.....	片 村 永 樹	166
X線拡大撮影法.....	後藤 薫・大森 孝郎・仁平寛巳・酒徳治三郎 ・日野 豪・片村永樹・玉置 明	180
原発性尿道癌の 2 例.....	長沢太郎・島 誠一・武村俊一	185
昭和33年度京大泌尿器科患者の統計的観察.....	稲 田 務・他	192
尿路感染症に対する Sigmamycin の応用.....	重 松 俊・鮫 島 博	199
学会記事 第 3 回日本泌尿器科学会関西地方会.....		205
編集後記・購読要項・投稿内規.....		206

Studies on Pleuropneumonia-Like Organisms in Non-Gonococcal Urethritis in the Male

I. Isolation of Pleuropneumonia-Like Organisms from the Urethritis in the Male.	M. Oshima	127
---	-----------	-----

Studies on Pleuropneumonia-Like Organisms in Non-Gonococcal Urethritis in the Male

II. Classification of the Strains of Pleuropneumonia-Like Organisms Isolated from Non-Gonococcal Urethritis in the Male.	M. Oshima	139
--	-----------	-----

Studies on Pleuropneumonia-Like Organisms in Non-Gonococcal Urethritis in the Male

III. Susceptibility of Pleuropneumonia-Like Organisms to the in vitro Action of Antibiotics.	M. Oshima	145
--	-----------	-----

Studies on the Newly Devised Jikeikai Artificial Kidney (Blood Cleaner)

Report 3 : The Experimental Studies on Normal Dogs and Uremic Dogs.	N. Miki	153
---	---------	-----

Studies on Protein in Urological Field

2 : Polarographic Plasma Albumin Wave in Genito-Urinary Diseases.	E. Katamura	166
---	-------------	-----

Enlargement Radiography.	K. Goto, T. Omori, H. Nihira, J. Sakatoku, T. Hino, E. Katamura and H. Tamaki	180
--------------------------	---	-----

Two Cases of Primary Urethral Cancer.	T. Nagasawa, S. Shima and T. Takemura	185
---------------------------------------	---------------------------------------	-----

Statistical Investigation on Patients, Operations and Main Urological Examinations in Department of Urology, Kyoto University, in 1958.	T. Inada et al.	192
---	-----------------	-----

The Clinical Application of Sigmamycin to Urological Infection Diseases.	S. Shigematsu and H. Sameshima	199
--	--------------------------------	-----

Social Transactions.		205
----------------------	--	-----

京都大学医学部泌尿器科教室

泌尿紀要

Acta Urol.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Japan.

Editor : Prof. Tsutomu INADA

編集後記

最近の新聞記事によると厚生省は医療機関を体系的に整備する目的で医療法改正案を国会に提出するよう準備していたが、文部省から強い反対が出て難航している由。厚生省としては現在のように各省がそれぞれの計画で各省附属病院を増設すれば、病院は必然的に都会に集中し、従って無医地区を解消するために体系的に病院を建てて行こうという厚生省の計画が順調に行かなくなる恐れがあるという。このため改正案では「各省が公的医療機関を設置する場合は予め厚生省と協議する」ことを決めた。これに対し各省は初め反対を主張したが、自民党側が改正案を支持した結果、殆どが折れ、現在では文部省のみが強硬に反対している。その理由は「大学病院の一部権限を厚生省に移管すると学問、研究の自由を脅かされる心配がある」というのである。文部省側の主張は当然であつて、その後の政治的な動きも大学病院の特殊性を認める方向に行つている。然しこの問題はあまり簡単ではなくて、種々の事情が含まれている。厚生省が本当に医療機関の偏在を調整し、無医地区を無くさんというのであれば、公的大病院よりもむしろ開業医或は診療所の分布を考えるべきである。そこで厚生省の真意は無医地区解消に名をかりて各省所管病院に関与せんとするのではなからうか。然し他面から云えば現在のように性格の異なつた病院が乱立している状態も感心出来ないから、医療機関が大きなシステムの下に統合せられることは良い。然しこの際には嘗て本欄にも書いたように、あくまでも医師が中心になるべきで、現在のままの厚生省や政治家が支配するのはよくない。

昭和27年頃の全国国立大学病院長会議議事録を見ると、「大学病院と保険診療」に就て極めて積極的に討議せられているが、その後はあまり現実的に動いていない。最近日本医師会内の医学教育委員会に於て、却つて大学の保険診療が具体的に検討されている。これは大学としては有難いことではあるが、一面、大学の不甲斐無さを表わしているものであつて、まことに恥ずかしいことである。大学はもつと真剣に、具体的に大学の診療に対処せねばならぬ。

購読要項

1. 発行は毎月（年12回）とする。年間購読者を以て会員とする。
2. 会員は年間料金 1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. : J. Urol., 45 : 527, 1941.
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用いること。希望の場合は当編集部にて翻訳します。抄録用の原稿を送ること。翻訳の実費は申受く。
6. 掲載料は4頁迄毎頁 500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部。